

月刊 あなたにこの本を！ 平成 20 年 12 月号

大阪市立図書館 「あなたにこの本を！」選定委員会

大阪市立図書館が購入した新しい本の中から、図書館員のおすすめの本を紹介します。



…字が大きめ

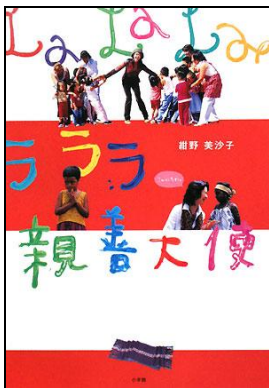


…中高生にも



…図・写真が多い

※価格のあとの()内の番号は、大阪市立図書館書誌 ID です。



ラララ親善大使



紺野美沙子 著
小学館 1470 円 (0011652975)

ジャンル：現代社会を見つめる

1998 年、女優である著者は国連開発計画(UNDP)の親善大使を引き受け、10 年間で7つの開発途上国と地域を訪れた。本書では、それぞれの暮らしぶり、著者と現地の人々との交流などが率直で飾らない文章で綴(つづ)られ、美しい写真とカラフルな装丁が彩りを添える。未来を信じ希望を失わないこと、一歩でも前に進むことの大切さが著者の人柄とともに伝わってくる。各訪問記の最後に現地の 12 歳の子どものプロフィールや将来の夢が紹介される。[333.8]



四天王寺聖霊会(してんのうじ しょうりょうえ)の舞楽



南谷美保 著
東方出版 2940 円 (0011684479)

ジャンル：大阪にゆかりの本

古くから四天王寺では、聖徳太子の霊を慰めるために極楽浄土を演出した大法要、聖霊会が行われてきた。著者はどの場面で舞われるかで奉納舞を分類し、いわれや特徴、衣装などを、カラー写真や絵図を多く用いて詳しく解説する。また、代々四天王寺の舞を伝えてきた天王寺楽所(てんのうじがくそ)の楽人(がくにん)を中心に、日本舞楽の歴史にも言及する。舞の華やかさや奥深さとともに、「信仰」の舞に対する楽人のこだわりにも触れられる一冊。[768.2]



フードバンクという挑戦 一貧困と飽食のあいだで

大原悦子 著
岩波書店 1995 円 (0011691272)

ジャンル：現代社会を見つめる

フードバンクとは、安全にもかかわらず処分される食品を企業などから寄付してもらい、それを必要とする団体等へ無償で供与する活動。支援対象は国内の生活困窮者である。米国で発足し、日本各地に広がりを見せている。本書では米国での活動誕生から現在の状況までと、日本に根付かせようとするNPOの様子を克明に報告する。飽食の時代といわれる中で、支援を命綱にする人がいるという現実からは、現代社会の抱える矛盾について考えさせられる。[611.3]

自然派のんびりライフ



佐光紀子 著

ジャンル：暮らしにうるおいを

晋遊舎 1260 円 (0011678864)

重曹の活用を提案してきた著者が「毎日続けるエコは楽しくなくちゃ」というコンセプトで、簡単な暮らしの知恵を紹介する。マイ箸運動やお手製の乾物の作り方、重曹消臭剤などのアイデアを、温暖化対策・食事・掃除・美容という4章にまとめた。「からだにやさしい」「お財布にやさしい」といった評価をかわいいマークで示し、写真や図も多く、気軽に実践したくなるような工夫が満載。家族みなでおしゃれなエコライフにチャレンジしてみませんか。〔590〕

孤母社会 ―母よ、あなたは悪くない！―

高濱正伸 著

ジャンル：子どもの成長のために

講談社 840 円 (0011707777)

著者は長年、主催する自然体験塾で、ひきこもりや家庭内暴力など様々な問題を抱えた子どもや親と向き合ってきた。そのなかで、その問題行動に潜む「孤母」の問題を確信する。本書では、核家族で育ち、人に頼ることを知らず孤独な育児に奮闘する母親を「孤母」と名づけ、その実態と解決策を示す。さらに、男性視点から父親を上手に育児に引き込むためのアドバイスも紹介。すべての母親が安心して大らかな子育てを、との著者の願いが伝わってくる。〔367.3〕

たとえば、銀河がどら焼きだったら？ ―宇宙比較講座―



布施哲治 著

ジャンル：知識・教養を深める

日本評論社 1522 円 (0011683208)

理学博士で天文学研究者の著者が、宇宙を身近なものになぞらえてその特徴をわかりやすく説明する。銀河のかたちは中心がふくらんで端がうすいどら焼きに似ている。地球の大きさをりんごにたとえると、月はキンカンに。なぞかけをしたり、素朴な感想をおりまぜた語り口調につい引き込まれていく。見開き2ページごとにテーマが変わり、どのページからでもさりと読むことができる。それぞれに手描きのイラストがあり、親しみやすい。〔440〕

あなたは顔で差別をしますか ―「容貌障害」と闘った五十年―



藤井輝明 著

ジャンル：生き方・考え方に学ぶ

講談社 1575 円 (0011712340)

著者は、ある病気が原因で顔の一部が大きくふくれあがっている。見た目が人と異なるというだけで、これまでに様々な差別を受けてきた。本書は、その苦しみを抱えながらも医療の道へと進み、顔に病気や傷のある人々に対する偏見をなくすため、精力的な活動を続けてきた著者の半生をたどる。優しく語りかけるような文章からは、誰もが心地よく暮らせる社会の実現を願う切実な思いが伝わってくる。多感な時期にある中高生にもすすめたい。〔494.8〕

ぼくらの時代には貸本屋があった ―戦後大衆小説考―

菊池 仁 著

ジャンル：知識・教養を深める

新人物往来社 2940 円 (0011693675)

昭和 30 年頃、大衆娯楽の礎を担っていた貸本屋。本書ではその貸本屋と当時流行していた大衆文学について、著者の読書体験や貸本屋でのやりとりを振り返りながら考察する。また、貸本利用のアンケート調査や当時の人気作家・白川渥の単行本リスト等、資料も豊富。テンポの良い語り口でかつての文学界の様子を生き生きと描き出す。眠狂四郎など、時代小説に熱狂した少年時代の著者が行間から垣間見え、その情熱に思わず読書意欲をかきたてられる。〔910.26/ホ〕